

荻生徂徠における人間観 Ogyu Sorai's Theory of Human Nature

徳重 公美

日本語

はじめに

荻生徂徠(1666-1728)は、江戸時代中期に活躍した儒学者である。幕臣柳沢吉保に召抱えられ、將軍綱吉や吉宗なども接点のあった徂徠の関心は主として政治であり、その具体的な方法であった。徂徠は「道といふは国天下を治候仕様に候」¹と述べて、儒教において中心となる概念である「道」を、国を治める方法すなわち政治に限定する。と同時に、「たとひ何程に心を治め身を修め。無瑕の玉のごとくに修行成就候共。下をわが苦世話に致し候心無御座。国家を治むる道を知り申し候はば。何之益も無之事に候。」²として、従来の儒教的考え方を否定した。一般的に儒教と言えば、道徳的修養を重要なものとし、万人がその修養を達成させた結果として天下太平がもたらされると考えられるが、徂徠はその連続を断ち切って、道徳的修養それ自体には価値を見出さず、「天下を安んずる」その方法を重視したのである。

当時においても、また後世に対しても影響力を持った徂徠学は、第一にこの事の特徴とするが、庶民の間にまで伝播した徂徠学的要素の一つはその人間観であった。「心を治め身を修め。無瑕の玉のごとくに修行」することに価値を見出さなかったことで、徂徠学における人間観は単に道学主義を退ける考え方として庶民の間に伝播し、好まれたのである³。しかしながら、徂徠は道徳をまったく無意味なものとしていたのではない。本稿においては、この点を明らかにするとともに、徂徠学の見落とされがちな側面を、徂徠における人間観を通して取り上げる。

1、気質不変化説

徂徠の人間観として従来取り上げられ、また当時において好まれたものが気質不変化説である。徂徠において人間は、一人として同じ者がいない、まったく別々の存在として捉えられ、その個別性は積極的に容認された。徂徠は「凡ソ人タル者ノ生レ附、其器量・才智、人々各別ナル者ニテ、一様ナル人ハ天地ノ間ニ無レ之」⁴と捉えられる現実をそのまま肯定し、強調する。

気質は何としても変化はならぬ物にて候。米はいつまでも米。豆はいつまでも豆にて候。…されば世界の為にも。米は米にて用にたち。豆は豆にて用に立申候。豆は米にはならぬ物にて候。米は豆にはならぬ物にて候。⁵

「気質」とは人間の本質を指す語で「性」とも呼ばれ、天より与えられた先天的なものであると徂徠においては考えられている。人間は先天的に異なる存在であると考えられ、その違いはどのような方法を以てしても変えることはできないのである。一方、当時主流であった「宋儒」(朱子学)は、道徳的修養を通して「人みな聖人たれ」と万人に一樣の目標を掲げる。

朱子学は「性」を「本然」と「氣質」に分けてその存在を説明する。「本然の性」とは「理」すなわち究極の根源のことであり、人間はこの不可視の真理を「氣質の性」で覆われて存在する。朱子学はその上で、清濁の違いのある「氣質の性」を変化させることを説くのであるが、これは倫理的に言えば、人欲を減して天理を明らかにせよと述べているのである。理は倫理的には至善である。本来的な善を、理に専心し人欲を払うことで「聖人」、すなわち、あらゆる徳を備えた人格的に完成された人物を目指すのである。朱子学においては、「氣質の性」によって人間は現象界における差を持つが、みな本質的には「理」、すなわちすべてが同じ本質を持つものとして解釈される⁶。

徂徠は朱子学の提示するこの人間像を「宋儒の説のごとく氣質を変化して渾然中和に成候はば。米ともつかず豆ともつかぬ物に成たきとの事に候や。それは何之用にも立申間敷候。」⁷と、批判する。朱子学的「聖人」は、自他を一貫する共通普遍的「理」の具現者である。この意味において、すべての人間は画一的に理解され、「聖人」となることは性の特殊性が失われて「米ともつかず豆ともつかぬ物」になること、すなわちその個性性を失うことであると徂徠においては理解された。「無尽之變動」⁸を見せる「世界の為にも」、人はその個性を特化させなければならない。あらゆる事象を社会全体が乗り越えるために、それを乗り越える能力を持つ誰かが対応する必要があるからである。しかし、朱子学の修養方法では世界の様々な変化に人間が対応できなくなる。それ故、徂徠においては本質的に「殊」なる「性」はその特質を活かして成長すべきだと説かれるのである。

また、「性」の本来の特殊性は「天」を背景にすることでさらに強固に主張される。「天」とは「至尊にして比なく、能く踰えてこれを上ぐ者なし」⁹と言われ、ただ「敬す」と言われる至高の概念であり、信仰の対象である。徂徠学において、至高なる「天」によって定められた各々の本性は、それ故、変化さ

せることができないのである。

2、「性」に伴う独断性

このように個別であることが強調された人間は、また、独断的な側面を持つ。

人の見る所は、おのおのその性を以て殊なり。辟へばすなはち飴は一なり。伯夷はこれを見て「以て者を養ふべし」と曰ひ、盜跖は「以て枢に沃ぐべし」と曰ふ。これ它なし。人おのおのその見る所を見て、その見ざる所を見ず。故に殊なるなり¹⁰。

飴という一つのものを見ても人によって考えることは異なる。人はその異なる「性」によって物事を判断するからである。そして、人間は本来的にこのようであるため、自分に内在するものを明らかにするという方法で見いだされる普遍的な理想像としての「聖人」は信憑性を欠く。徂徠は、朱子学が行う「修身」すなわち「人欲浄尽て天理渾然なる人を聖人と立」ててそれとなることを、子供が想像で鬼を書いたり、落雷は雷神が太鼓を叩くことによっておこるのだと推量したりすることとなら変わらないと言う¹¹。聖人に成ろうとし「理」を明らかにしようとすれば、自分で想像するしかない。しかし、各々が「これこそ理である」と考えて体現する達成形は、そもそも異なる個々人がそれぞれに推量したものであるから、共通したものではありえない。すなわち、朱子学が聖人に成ろうとするその方法は「我が心を以て我が心を治むる」ひとりよがりなものであり、それは「狂者みづからその狂を治むる」¹²ことと同じで、普遍的な妥当性を欠くのである。徂徠が「修身」を否定したのは、このような人間の側面に注目したからなのである。

しかしながら、このように厳密に区別される個々人は、自分の利益のために他者を犠牲にする自己本位的な存在や、権利を主張する強い主体性を持った存在としては理解されてはいない。

3、「親愛生養の性」

個々人はどこまでも異なる存在であるが、徂徠は、「かつや相親しみ相愛し相生じ相成し相輔け相養ひ相匡し相救ふ者は、人の性然りとす。」¹³と述べて、人間は相互に親愛によって結ばれ、他者を養い、その成長を助け、正し、救う存在であると考えている。徂徠において、異なる人間同士は協力して社会を営む本性を持つと考えられているのである。

しかしながら、この働きも無条件に肯定されるわけではない。相手のためを思ってなされる判断も独断性を免れず、妥当性を欠くからである。このために指針として与えられたものが「先王の道」である、と徂徠は考える。

能く億万人を合して、その親愛生養の性を遂げし

むる者は、先王の道なり。¹⁴

「先王の道」とは、古代中国の帝王¹⁵がその知力を尽くして作為した道のことであり、「礼楽刑政」のことであると述べられる。この先王たちは、「礼楽刑政」によって、人間に言語も技術もないまったく未加工の原初的自然から決別する契機を与えた存在として考えられているのである。

原初的自然において、人間はただ活動するだけの禽獣にちかい存在であった¹⁶。善も悪も無造作に生み出すのである。そして、このような人間の行動を左右するものが、各々が生まれもった「性」である。人間がその「性」に左右されることは、既に取り上げたが(2)、各々が異なった本質を持ち、それ故にその差に従った固有の判断・行動しかできない人間に示された唯一の正当性として「先王の道」は示されるのである。

先王の道に循がふ、これを正と謂ふ。先王の道に循はざる、これを邪と謂ふ。…これ(先王の道—引用者注)を規矩準繩に辟ふ。正をなす所以の器なり。規に循へばすなはち円なる者正しく、矩に循へばすなはち方なる者正しく、準繩に循へばすなはち平直なる者正し。先王の道は規矩準繩なり。¹⁷

「先王の道」に認められるこの客観的正当性は、「先王」の「聖人」性に由来する。徂徠の考える「聖人」は道徳的人格者を指すのではない。「聖人」とは天命により王として君臨して「礼楽刑政」を制定した人物であり、学んでもそれと成ることが出来ないとされる隔絶された歴史的な存在者である。そして、聖人は「天」より「聡明睿知之徳」と呼ばれる最高の知性を限定して与えられており、先王はこの知性によって「規矩準繩」となる「道」を見極めたと考えられている。「道」はこのような聖人に作為されたと言う一点において、その優越性と正当性が主張されるのである。先に朱子学的理が妥当性を欠くことを述べたが、人が理を知ることが出来ると思えることは、徂徠学においては聖人の至高性を犯す冒瀆であると思える側面からも否定される。それでは、見出された「道」とは具体的に如何なるものであろうか。

4、「孝弟忠信」

「道」は人が原初的な存在から脱する唯一の方法であり、また人が参与すべき政治制度であるが、徂徠においては、種々に異なる人間の多様性をそのまま包括すると考えられたために様々な側面を持つと考えられる¹⁸。ある人は「仁」徳を以て「道」に加わり、ある人は「勇」徳を以て加わると考えられるように、人々を包括する道への参与の仕方は一言に尽きないのである。その中に「準拠」・「万民の標準」ともいわれる標準的な拠り所として、すべての人が行うと

考えられた側面がある。

先王の建つる所は、甚だしくは高からずして人みな勉強してこれを行ふべき者に非ざるはなし。賢知者は俯してこれに就き、愚不肖は企ちてこれに及ぶ。¹⁹

そして、このような内容を持つ徳は「孝弟忠信」である。この徳も「甚だしくは高からずして常に行ふべき者」と、同様に説明される²⁰。孝は父母に対する、弟は年長者に対する、忠は君に対する、信は友人に対する態度をいうものであり、概して他者を自分のことのように気にかけて接する、日常的な生活態度のことである²¹。「先王の道」は私たちが関わりを持つ他者を自覚させ、彼らと共に私が在るのだということを知らしめる。徂徠はこれらを「上たる人の学び可申君子之道も之（孝弟忠信—引用者注）を土台にいたし候而。此上に君子之大道を学候事にて御座候」、「少量なる人は孝弟忠信にて候。其外之義は好みに任せ候事にて候」²²と述べて、最も基本的な道徳的義務とするのである。

「親愛生養の性」は以上のような道徳的義務によって結ばれる関係の中で正しく発揮される。このようにして、種々に異なる万人は、種々に異なるその行動に正当性を得る。すべての人間のその多様性はこの共通の義務を果たしてこそ、世界の役に立つものとなるのである。

おわりに

以上のように、気質不変化説をはじめとして徂徠の人間観を取り上げた。やや忘れがちなのは、徂徠において人間の多様性が全面的に肯定されたのではないということである。人間の個々の活動は「道」によってしか正当性を得ない。人は、自分の視点からしか判断できず（利己的というほどではないが）、またその知性には限界があるために、数えきれないほどの異なる他者との間に良好な関係を築く術を自分の内からは導き出せないからである。そして、この「道」すなわち「国を治める仕様」は、「聖人」ひいては、彼らを聖人たらしめる「天」への強い信仰に基づいている。また、それによって導き出された道徳的態度—「孝弟忠信」に限定された容易な行いとどまるが—を義務とする見方を含む。

徂徠の思想は政治を主眼とするものであり、平天下という目標を欠いては成り立たないものであるが、

その一つの側面として信仰や、道徳への要求を見逃してはならない。

注

- 『徂徠先生答問書』以下『答問集』（島田虔次編輯『荻生徂徠全集 1 学問論集』みすず書房、1973。以下、島田編『全集 1』）469 頁。
- 『答問書』（島田編『全集 1』）431 頁。
- 日野龍夫『江戸人とユートピア』（岩波現代文庫、岩波書店、2004）97-103 頁。
- 『政談』（吉川幸次郎・丸山真男・西田太郎・辻達也校注『日本思想大系 36 荻生徂徠』岩波書店、1973。以下『大系』）375 頁。
- 『答問書』（島田編『全集 1』）456 頁。
- 島田虔次『朱子学と陽明学』（岩波新書、岩波書店、1967）60-61、92-96 頁。
- 『答問書』（島田編『全集 1』）456 - 457 頁。
- 「惣じて世間の一切の事。人智人力のとゞき候限り有之事に候。天地も活物。人も活物に候故。天地と人との出合候上。人と人との出合候上には。無尺之変動出来り。」『答問書』（島田編『全集 1』）462 - 463 頁。
- 『弁名』（『大系』）120 頁。
- 『弁名』（『大系』）150 頁。
- 『答問書』（島田編『全集 1』）457 頁。
- 『弁道』（『大系』）27 - 28 頁。
- 『弁道』（『大系』）17 頁。
- 『弁道』（『大系』）18 頁。
- 伏羲・神農・黄帝、堯・舜・禹・湯・文・武・周公。徂徠における「聖人」は更に孔子を含む。周公と孔子は王座に就いてはいないが、周公は周代の政治政策の制定がほとんど彼の手によることから、孔子は当時失われていた「道」を集めて編纂し、六経を編んだ功績がとて偉大であることから、「聖人」とされる。
- 「総じて人はただあられぬ物にて候。心のよせ所なければ悪事をする物にて候」『答問書』（『全集 1』）467 頁。
- 『弁名』（『大系』）106 頁。
- 「道なる者は統名なり」『弁道』（『大系』）13 頁、「先王の道は多端なり」『弁道』（『大系』）19 頁。
- 『弁名』（『大系』）108 頁。
- 「中庸なる者は、甚だしくは高からずして常に行ふべき者を謂ふ。孝弟忠信のごときこれなり。」『弁名』（『大系』）109 頁。
- 『答問書』（島田編『全集 1』）458-459 頁。
- 『答問書』（島田編『全集 1』）466-467 頁。

英文

Introduction

Ogyu Sorai (1666-1728) is a Confucian scholar in the middle of the Edo Era. He was employed by Tokugawa shogunate's political adviser Yanagisawa Yoshiyasu and met Tsunayoshi (5th Shogun) and Yoshimune (8th Shogun). So he was mainly concerned with politics and its corrective way. Sorai said "The Way (道) means governing the country"¹. He limited The Way that is core concept in Confucianism to political governing. As well as he said "no matter how much one regulates one's mind (心) and refines one's person (身) and no matter how one is polished as the most perfect gem, if one does not know how to govern the country, there is no benefit."² That is why he criticized traditional Confucian view. Generally, Confucianism regards moral discipline (ways to be "perfect gem") as important, and consequently expects the governed state as harmonious society. But Sorai did not think so. He disconnected governing from moral discipline, and stressed the ways to govern the country.

This is the primary feature of Sorai school, but it was its theory of human nature that was the most popular among contemporary and later people. By criticizing "to regulate one's mind and refines one's person" and "to be polished as the most perfect gem", theory of human nature of Sorai school was simply took opposed against rigorism by the common people.³ So this theory spread over and became much popular. However Sorai didn't regard moral activities as senseless. In this paper, I take up this point which tends to be dismissed but is central in Sorai's thinking, concerning his theory of human nature.

1. The constancy of human's nature (性)

It is the theory that human's nature (性) can't be transformed that has been considered as Sorai's theory of human nature and prevailed at that time. For Sorai, there is no person who is similar to anyone. Human beings were quite different each other, and Sorai actively maintained their differences. He said "Human's innate nature, capacity and ability are different respectively, so there are no human beings who have nature in common."⁴, and affirmed and emphasized this fact. He contended that,

The inborn nature (氣質之性) never do transformation: a grain of rice is forever grain of

rice; a bean is forever a bean. [...] a grain of rice is useful for the world as a grain of rice, and a bean is useful as a bean. But a grain of rice will never become a bean; nor will a bean ever become a gain of rice.⁵

"The inborn nature" means human original core, simply called nature (性), it is given by Heaven (天), Sorai thought. All people are different innately, nothing in the world vanishes this difference. While Song Confucian (especially Zhu Xi school), that was leading thought in those days, set itself the uniform goal of being a sage for anyone.

Zhu Xi (朱熹) divides human's nature into "original aspect (本然之性)" and "physical disposition (氣質之性)", and explains human existence by these. Original aspect means "Principle (理)" as ultimate source, but we exist with this unseen truth being concealed by physical disposition. And Zhu Xi school explains to transform physical disposition, in ethical words, this school aims to be a sage by removing their desires and have become one with Principle. Principle (理) means absolute goodness in ethics. So, everyone must to turn themselves to Principle and take their desire away to display inside goodness, and to be a man of character having all virtues, "a sage". In Zhu Xi school, people have their difference in phenomenal world by physical disposition, while all people have essentially same principle and display it⁶.

Sorai criticized this view which was suggested by Song Confucian, and said "If, following Song Confucian theory, one transformed one's innate nature (氣質之性) and achieved that "indeterminate and harmonious state (渾然中和)," but is this not like a grain of rice or a bean wanting to be something else? That could not be of any benefit."⁷ Sorai comprehended that the human being who was suggested by Song Confucian is one who is unified with others and lost one's individuality. To cope with "endless changing phenomena"⁸ of the world, people have to develop their innate nature. Because phenomenon are so various that every one should keep her diversity. If we should follow Zhu Xi's theory to be a sage, no one could react what will happen from now onward. So Sorai emphasized that people had grown up each other according to their innate nature and had not be unified.

In addition, innate nature's "innately" is strongly emphasized by an argument that human's nature is

derived by Heaven (天). The Heaven is “the most revered spiritual force which cannot be compared to anything, nor anything can transcend or surpass it.”⁹ Namely, Heaven is the most highest which we can revere. In Sorai school, human’s nature is fated by highest Heaven, so it never cannot transform.

2. Human’s incompatibility

Human beings are understood as different each other as stated, and also they have dogmatic disposition.

What people perceive differs according to their human natures. For example, rice jelly is rice jelly; but Bo Yi saw it and said, “I can nourish the aged with it,” while Robber Zhi concluded, “I can lubricate hinges with it” There differences are due to nothing but their human nature.¹⁰

Even people see the same thing, they have various views. Because people decide by their innate nature. Human being is like this, therefore Song Confucian’s way to be a sage by clearing original aspect inside himself, lost universality and reliability. Sorai thought that discipline, to have completely removed their desires and have become one with Principle, was same with that a child girl paints demon by her image and images that thunderbolt is phenomena arose by god of thunder playing the drums¹¹. Likewise, if people would embody unseen Principle, they image it by themselves. Each man would think “this is true Principle” and if they would embody it, embodied one could not be universal. So moral discipline of Zhu Xi school is self-satisfaction way as “Trying to use our minds to control our minds,” and it “likes a crazed person personally trying to control his own craziness thereby.”¹² The reason of Sorai criticizing traditional Confucian view is that he noticed this side of human’s tendency.

However, Sorai didn’t understand that humans who are distinguished severally are individuals who sacrifice other people for self benefit and existences who have strong identity emphasizing their rights.

3. Human nature toward kinship (親), love (愛), livelihood (生), and nourishment (養)

All humans are different fundamentally, however Sorai thought “the human nature of humanity naturally tends toward mutual kinship, mutual love, mutual livelihood, mutual completion, mutual assistance, mutual nourishment, mutual protection,

and mutual help.”¹³ Namely People are grasped as living in society by cooperating innately.

But this tendency is not accepted unconditionally, because every acts for others can not avoid self-satisfaction too. So Sorai thought that “the way of the early kings (先王之道)” is gifted as precept to avoid our dogma.

If someone is able to bring together trillions of people and have them attain their human nature toward kinship, love, livelihood, and nourishment, then the way of the early kings.¹⁴

“The way of the early kings” means the way established by kings of ancient China¹⁵ using their intellect, as rites (礼), music (楽), penal laws (刑), and administrative institutions (政). According to Sorai’s thought about ancient, this way is understood as moment that humans get out of original nature in which language and techniques are not yet.

In original nature, humans have activity only like animals, so they do good and bad things at random.¹⁶ And this acts derived from their inborn nature (性). As has been mentioned (2), human’s conclusion and act dependent on their nature. For these humans who do anything according to their nature, the way of early kings is showed as only justification.

Following the way of the early kings amounts to being correct, while not following it is falsehood. [...] The meaning of correctness can be explained by likening it to compasses, squares, levels and planes, that is, instruments by which we gauge correctness.¹⁷

Objective justice of the way of the early kings derives their sagehood. According to Sorai, the sage is not a man of character having all virtues. The sage has historical existence in ancient China who reigned as king by Heaven’s will and established rites, music, penal laws, and administrative institutions. Sages were gave “virtue of intelligence, brilliance, perception, and wisdom (聰明睿知之徳)” only by Heaven, so they could establish The Way as instruments by which we gauge correctness. Only as establishment by sages, The Way has superiority and justice. I mentioned above that Principle of Zhu Xi school’s thinking had lose reliability, to embody the Principle also was contradicted by reason as committing sage’s height, in Sorai’s thinking. So, what is the way to

call forth nature toward kinship, love, livelihood, and nourishment, concretely?

4. Filial Piety (孝), Brotherly Respect (弟), Loyalty (忠) and Trust (信)

The Way is only one how we get out of original nature and at the same time it is administrative institutions in where we participate, for Sorai it has various aspects to include different people¹⁸. As one participate in The Way with virtue of humanity (仁), the other with virtue of courage (勇), so The Way has many aspects. In them, there is aspect of standard anchorage which all people can do it without hard effort.

What the early kings formulated is not extremely lofty: there is nothing in it that a person cannot practice with effort. Worthies can easily bend to reach it, while the foolish can stretch and reach it.¹⁹

And, virtues having same substance is Filial Piety (孝), Brotherly Respect (弟), Loyalty (忠), and Trust (信).²⁰ Filial piety is manner to parents, brotherly respect is to elder, loyalty is to one's lord, trust is to friends, generally speaking these are earnest attitude in daily life.²¹ The Way of the early kings makes us possible to become aware of those we concern and teaches us that we exist with them. Accordingly Sorai said "as for the way of the Gentleman (君子), which rulers study, it has as its foundation Filial Piety, Brotherly Respect, Loyalty, and Trust and as supplement the study of the great way of the Gentleman," and "people limited ability are encouraged to be filial, respectful to their brothers, loyal, and trusting and to be allowed to do as they please with all other matter,"²² these four virtues were set for most fundamental moral duties for all people.

Human's nature toward kinship, love, livelihood, and nourishment is called forth rightly by doing these moral duties. Like that, different people's different acts can get justice. It is everyone's variety of nature that will be useful in the world only if she accomplishes these common duties.

Conclusion

I have just examined Sorai's theory of human nature including his view that human's nature can't be transformed. What we often tend to dismiss is that human's variety is not affirmed wholly. Human's different act cannot be authorized without The Way. We make judgment from each

limited point of view (but not always egoistic), and their intelligence are limited, so they cannot lead themselves to make good relation among countless different others. The Way as governing country is based on faith for sages, in turn for Heaven which predestines sages to be what they are. Also The Way includes moral manners —limited to filial piety, brotherly respect, loyalty, and trust— are set as duties.

Sorai's thinking emphasized governing, and didn't go without goal as changing country to be harmonious. But we must not miss that this Way based on his faith for Heaven and demand for moral.

Notes

1. Ogyu Sorai, *Master Sorai's Responsals*, 「道といふは国天下を治候仕様に候」
2. *Master Sorai's Responsals*, 「たとひ何程に心を治め身を修め。無瑕の玉のごとくに修行成就候共。下をわが苦世話に致し候心無御座。国家を治むる道を知り申し候はば。何之益も無之事に候。」
3. Cf. Tatsuo HINO, *Edo-people and utopia*
4. Ogyu Sorai, *Seidan*, 「凡ソ人タル者ノ生レ附、其器量・才智、人々各別ナル者ニテ、一様ナル人ハ天地ノ間ニ無之」
5. *Master Sorai's Responsals*, 「気質は何としても変化はならぬ物にて候。米はいつまでも米。豆はいつまでも豆にて候。…されば世界の為にも。米は米にて用にたち。豆は豆にて用に立申候。豆は米にはならぬ物に候。米は豆にならぬ物に候。」
6. Cf. Kenji SHIMADA, *Zhu Xi school and Yang Ming school*
7. *Master Sorai's Responsals*, 「宋儒の説のごとく気質を変化して渾然中和に成候はば。米ともつかず豆ともつかぬ物に成たきとの事に候や。それは何之用に立申敷候。」
8. *Master Sorai's Responsals*, 「惣じて世間の一切の事。人智人力のとゞき候限り有之事に候。天地も活物。人も活物に候故。天地と人との出合候上。人と人との出合候上には。無尽之變動出来り。」
9. Ogyu Sorai, *Benmei*, 「至尊無比。莫能踰而上之者。」天命帝鬼神 1
10. *Benmei*, In this quotation, Zhi is legendary robber of ancient China. He would use rice jelly to open and close doors easily. 「人之所見。各以其性殊。辟則飴一焉。伯夷見之而曰。可以養老。盜跖見之而曰。可以沃枢。是無它。人各見其所見。而不見其所不見。故殊也。」理気人欲 1
11. *Master Sorai's Responsals*
12. Ogyu Sorai, *Bendo*, 「以我心治我心。譬如狂者自治其狂焉。」 18
13. *Bendo*, 「相親相愛相生相成相輔相養相匡相救者。人之性為然。」 7
14. *Bendo*, 「能合億万人。而使遂其親愛生養之性者。先王之

- 道也。」7
15. Fu Xi (伏羲), Shen Nung (神農), Huang Di (黄帝), Yao (堯), Shun (舜), Yu (禹), Tang (湯), Wen (文), Wu (武), Duke of Zhou (周公). As exception, Confucius (孔子) is a sage too (because his exploit that he put together and described The Way is very great). But here I limited 10 people who I mentioned above, because I referred political leaders until Zhou (周) Era in which administrative institutions was complete.
16. *Master Sorai's Responsals* 「総じて人はただあられぬ物にて候。心のよせ所なければ悪事をする物にて候」
17. *Benmei*, 「循先王之道。是謂正。不循先王之道。是謂邪。…辟諸(先王之道一引用者注)規矩準繩。所以為正之器也。循規則円者正。循矩則方者正。循準繩則平直者正。先王之道。規矩準繩也。」公正直 2
18. *Bendo*, 「道者統名也。」3, 「先王之道多端矣。」7
19. *Benmei*, 「先王之所建。莫非不甚高而人皆可勉強行之者焉。賢知者俯而就之。愚不肖者企而及之。」中庸和衷 1
20. *Benmei*, 「中庸者。謂不甚高而可常行者。如孝弟忠信是也。」中庸和衷 2
21. *Master Sorai's Responsals* 「孝は親によくつかへ候事。弟は兄長によくつかへ候事。忠は君につかゆるにても。又たれにても。人のためになし候事をば我身の事のごとくに如在なく身にかけて申し候事の候。信と申し候は。朋友其他あまねくの人にまじはり申し候には言語を慎み偽り違候事なきやうに致し候を申候。是にて父母兄弟君臣朋友の道こもり申候故。五倫と申候も。中庸と申候も。孝弟忠信と申候も。ひとつ事に而御座候。」
22. *Master Sorai's Responsals*, 「上たる人の学び可申君子之道も之を土台にいたし候而。此上に君子之大道を学候事にて御座候」・「少量なる人は孝弟忠信にて候。其外之義は好みに任せ候事に候」

とくしげ くみ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 博士課程 2年